

# 主 要 業 務 報 告

平成14年9月17日  
農林水産技術会議事務局

## ・特段の報告事項

- 1 . 平成 1 4 年度農林水産省農作物新品種命名登録・中間母本登録評価検討会(第 1 回)  
(別添 1 参照)

独立行政法人及び指定試験地が育成した系統で、命名登録申請のあった 3 1 系統、中間母本登録申請のあった 2 系統について、特性の優良性及び品種の名称の審査を行い、この結果、申請のあった全ての系統を新品種とし、命名登録の手続きを進める。

- 2 . 2 0 0 2 昆虫産業創出ワークショップ(別添 2 参照)

8 月 8 日、( 独 ) 農業生物資源研究所主催による「昆虫産業創出ワークショップ」が、本省 7 階講堂において民間企業、大学等から 2 7 0 名の参加を得て開催された。

ワークショップでは、初めての試みとして研究者とのフリーディスカッションももうけられ、予定時間を超える熱心な意見交換が行われるとともに、当日実施したアンケート調査では、「99%が産業化につながる」と回答するなど、昆虫研究に対する高い期待が寄せられた。

平成 14 年度農林水産省農作物新品種命名登録・中間母本登録評価検討会（第 1 回）

平成 14 年 7 月 18 日（木）10：00～16：15

7 月 19 日（金）9：30～11：SS

場所：農林水産技術会義委員室

#### 審査委員

米田 正人（（独）国立国語研究所情報資料部門上席研究官）

大木美智子（消費科学連合会会長）

藤原 勝子（ジャパンフードコーディネイタースクール校長）

竹村 晃（日本農業新聞編集制作局技術部長）

難賀 優（岩手大学農学部教授）

武田 元吉（玉川大学農学部客員教授）

神尾 正義（（社）農林水産技術情報協会専務理事）

長尾 精一（（財）製粉振興会参与）

今西 英堆（東京農業大学農学科教授）

金田 武夫（全国農業協同組合連合会生産システム研究室長）

藤巻 宏（東京農業大学国際食料情報学部教授）

上野 勇（（社）日本果樹種苗協会専務理事）

野原 宏（（社）日本果樹種苗協会常務理事）

#### 独立行政法人関係出席者

畜産草地研究所 飼料作物開発部長 杉田 紳一

作物研究所 稲育種研究部長 井邊 時雄

作物研究所 麦類研究部長 星野 次汪

果樹研究所 遺伝育種部長 真田 哲郎

野菜茶業研究所 茶業研究部長 保科 次雄

野菜茶業研究所 葉根菜研究部長 吉岡 宏

作物研究所 畑作物研究部長 喜多村 啓介

花き研究所 生理遺伝部長 腰岡 政二

#### 主な農水省出席者

西川研究総務官、佐々木研究開発企画官、地域研究課長、生産局関係課、食糧庁関係課、

独立行政法人及び指定試験地が育成した系統で、命名登録申請のあった 31 系統、中間母本登録申請のあった 2 系統について、特性の優良性及び品種の名称の審査を行い、この結果、申請のあった全ての系統を新品種とし、命名登録の手続きを進める。

平成14年度農林水産省農作物新品種命名登録・中間母本登録評価検討会（第1回）

1. 日時	平成14年7月18日（木）10:00～16:15	平成14年7月19日（金） 9:30～11:55
2. 場所	農林水産技術会議 委員会室（ドア番号 本676、本678）	同左
3. 作物	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飼料作物（命名登録イタリアンライグラス1、とうもろこし3）</li> <li>・畑作物（命名登録 小麦2、かんしょ1、ばれいしょ1、だいず5、こんにやく1、ごま1、茶1、らっかせい1）</li> <li>・花き（命名登録 つばき3、チューリップ2）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・稲（命名登録 水稻7）</li> <li>・果樹（命名登録 かき1、びわ1 中間母本なし1）</li> <li>・野菜（中間母本 いちご1）</li> </ul>
4. 時間割	<p>10:00～10:10 開会挨拶</p> <p>10:10～11:00 飼料作物の審査（4系統）</p> <p>11:00～11:30 麦の審査（2系統）</p> <p>11:30～11:45 茶の審査（1系統）</p> <p>11:45～12:45（休憩）</p> <p>12:45～14:50 畑作物の審査（10系統）</p> <p>14:50～15:00（休憩）</p> <p>15:00～16:15 花きの審査（5系統）</p>	<p>9:30～11:05 稲の審査（7系統）</p> <p>11:05～11:45 果樹の審査（3系統）</p> <p>11:45～11:55 野菜の審査（1系統）</p>
5. 学識経験者	<p>国語：米田 正人（（独）国立国語研究所情報資料部門上席研究官）</p> <p>全作物：大木美智子（消費科学連合会会長）</p> <p>全作物：藤原 勝子 ジャパンフードコーディネイタースクール校長</p> <p>全作物：竹村 晃 日本農業新聞編集制作局技術部長</p> <p>飼料作物：難賀 優 岩手大学農学部教授</p> <p>畑作物：武田 元吉 玉川大学農学部客員教授</p> <p>畑作物：神尾 正義（社）農林水産技術情報協会専務理事</p> <p>麦：長尾 精一（財）製粉振興会参与</p> <p>花き：今西 英堆 東京農業大学農学科教授</p>	<p>国語：米田 正人（（独）国立国語研究所情報資料部門上席研究官）</p> <p>全作物：大木美智子（消費科学連合会会長）</p> <p>全作物：竹村 晃 日本農業新聞編集制作局技術部長</p> <p>稲：金田 武夫 全国農業協同組合連合会生産システム研究室長</p> <p>稲：藤巻 宏 東京農業大学国際食料情報学部教授</p> <p>果樹：上野 勇（社）日本果樹種苗協会専務理事</p> <p>野菜：野原 宏（社）日本果樹種苗協会常務理事</p>
6. 独立行政法人	<p>農業技術研究機構：</p> <p>畜産草地研究所 飼料作物開発部長 杉田紳一</p> <p>作物研究所 麦類研究部長 星野 次汪</p> <p>野菜茶業研究所 茶業研究部長 保科 次雄</p> <p>作物研究所 畑作物研究部長 喜多村 啓介</p> <p>花き研究所 生理遺伝部長 腰岡 政二</p>	<p>農業技術研究機構：</p> <p>作物研究所 稲育種研究室長 井邊 時雄</p> <p>果樹研究所 遺伝育種部長 真田 哲朗</p> <p>野菜茶業研究所 葉根菜研究部長 吉岡 宏</p>
7. 行政部局	<p>生産局：農産振興課長</p> <p>特産振興課長</p> <p>果樹花き課長</p> <p>畜産部 飼料課長</p> <p>技術会議：西川研究総務官</p> <p>佐々木研究開発企画官</p> <p>地域研究課長</p> <p>地域研究課課長補佐（推進班担当）</p>	<p>生産局：農産振興課長</p> <p>果樹花き課長</p> <p>野菜課長</p> <p>食糧庁：消費改善課長</p> <p>技術会議：西川研究総務官</p> <p>佐々木研究開発企画官</p> <p>地域研究課長</p> <p>地域研究課課長補佐（推進班担当）</p>

別添 2

平成 14 年 7 月 31 日

農薬工業会会員 各位 様

農林水産省農林水産技術会義事務局  
先端産業技術研究課振興班  
課長補佐 佐藤  
法人係 阿部(03 - 3502 - 8111、内 5171)

## 2002 昆虫産業創出ワークショップのご案内

日頃、農林水産省が行う施策の推進にご協力頂き感謝申し上げます。

さて、8月8日(木)当省7階講堂に置いて標記ワークショップを開催することとし、農薬工業会のご協力を得て先日ご案内をさせて頂いたところです。

おかげさまで民間企業から約100名、その他大学等から30名の申し込みを頂いているところでございますが、農業用・衛生害虫用「ゲノム創薬」の講演、意見交換会を実施するに当たり若干余裕のある状況となっております。

つきましては、別紙のご案内を再度させて頂いており、皆様ふるってのご参加をお願いいたします。

(追伸)申し込みは当日会場での受付まで可能となっておりますが、資料の準備の都合からできるだけ事前の申し込みをお願い致します。

なお、参加費は無料ですので、申し添えます。

## 2002 昆虫産業創出ワークショップのご案内

～日本発シルクロードをつくります～

(独) 農業生物資源研究所

(社) 農林水産業先端技術産業振興センター

(社) 農林水産技術情報協会

昆虫は4億年にわたる進化の過程で海洋を除く地球上のあらゆる環境に適応し、様々な「特異機能」や各種の「生体高分子」、「有用タンパク質」を生産する能力をもつことから、「21世紀最大の未利用生物資源」として世界が注目しています。

(独) 農業生物資源研究所は、世界の昆虫研究をリードする中核拠点として、昆虫由来素材の加工によるアレルギー反応が少ない医用・生活用品等の開発や農業用・衛生害虫用「ゲノム創薬」の開発競争力を決定づける有用遺伝子領域の特定など、世界市場に挑戦できる技術開発を目指し研究を進めています。

世界的には、昨年認可されたヒトのゲノム創薬開発の成功を契機に、米、仏、中が国家プロジェクトを開始するなど、昆虫研究の競争は一気に加速する状況となっていますが、我が国100年の昆虫研究の成果と、民間企業の皆様がもつ創薬等のノウハウが結合すれば、日本の昆虫製品を世界に送り出す「日本発シルクロード」ができると期待しています。

本ワークショップでは、民間企業等の皆さんの期待に応えるべく、昆虫ゲノム創薬、昆虫工場、昆虫新素材の3分野について今後の産業化を展望するとともに、フリーディスカッションや個別の意見交換を予定していますので、多数のご参加をお願い致します。

日時：平成14年8月8日(木) 13:30 - 17:00

場所：農林水産省講堂

内容：

### 第1部

1. なぜ今「昆虫・テクノロジー」か  
中部大学副学長 山下興亜
2. ゲノム情報を用いた医薬品開発  
武田薬品工業医薬研究本部開拓第一研究所 森正明
3. カイコを利用したヒト・コラーゲンの生産  
広島県産業科学技術研究所 富田正浩
4. 昆虫材料の特性を生かした高機能新素材の開発  
東京農工大学工学部生命工学科 朝倉哲郎
5. 農業生物資源研究所が行う研究の成果  
農業生物資源研究所 川崎建次郎

### 第2部

ゲノム創薬、昆虫工場、昆虫新素材の主要3研究分野のブースを用意し、民間企業の皆様のご質問、共同研究等のご提案にお答えします。

参加申し込み：

7月30日(火)までに、参加者氏名、所属、所属部署、役職、住所、電話番号、ファックス番号、E-mailアドレスを記入し、E-mail またはファックスでご連絡ください。

参加申込先：別紙のとおりです。

農林水産省までの交通については、農林水産省のホームページをご覧ください。

<http://www.maff.go.jp/www/maff/index.html>

. 人事異動

平成14年9月1日付

(独立行政法人農業生物資源研究所)

・理事長

岩淵 雅樹

(岡山県生物科学総合研究所長)

## 平成14年度第5回農林水産技術会議の概要

1. 日 時 平成14年8月2日(金) 14:00~16:00

2. 場 所 農林水産技術会議委員室

3. 出席者

甕会長、鈴木委員、原田委員、佐々木委員

岩元事務局長、永山研究総務官、西川研究総務官 ほか

4. 議 題

(1) 研究制度の評価について

(2) 研究課題の評価について

(3) その他

5. 配布資料

- ・資料1 研究制度の評価について
- 参考資料1 「農林水産省における研究・技術開発の政策評価に関する指針」の改正ポイント
- 参考資料2 研究制度評価(自己評価票及び研究制度の概要)
- 参考資料3 研究評価の実施体制
- 参考資料4 研究制度評価の進め方について
- ・資料2 研究課題の評価について
- 参考資料5 研究課題評価の進め方について
- ・その他 バイオマス・ニッポン総合戦略の策定に向けて

6. 議事概要

(1) 研究制度の評価について

「農林水産省における研究・技術開発の政策評価に関する指針」に基づき行われる研究制度の評価について、その評価結果が諮られ、決定された。

## 【主な意見等】

TLOについては、初期段階において費用がかかること、また、大学のTLOについては必ずしもうまくいっているものばかりではないこと等、現状の問題を踏まえ、同じ轍を踏まないよう十分に検討する必要がある。

TLOを推進するにあたっては、独立行政法人、民間企業との間で必要な契約事項について充分詰める必要がある。

今回評価の対象となった3つの事業は高い評価を受けているので、必要な予算を確保すること。

競争的資金についてはその制度が充分活用されるよう、大学や民間の研究者にも充分周知されるよう措置すること。

## (2) 研究課題の評価について

「農林水産省における研究・技術開発の政策評価に関する指針」に基づき行われる研究課題の評価が諮られ決定されるとともに、当該指針に準じて行われた研究課題の評価結果が報告された。

## 【主な意見等】

終了した研究の成果の実用化や普及、他の研究への活用を推進するため、その成果を情報として広く知らしめるようにすべき。

都道府県の研究において、マーカー育種にかかる研究が増加しているが、その結果の公表が十分とは言えない。技術会議が各都道府県の研究成果をマップに落とすなどして整理し、分かり易い形で公表すべき。

## (3) その他

7月30日に公表された「バイオマス・ニッポン総合戦略骨子」について、その背景、現状、実現に向けての基本的視点等を踏まえた報告が行われた。

**【主な意見等】**

バイオマスは研究開発の中でも産学官が連携して取り組んでいかなければならない課題であるが、農山漁村の活性化や農林水産業自体の課題として、農業経営者やＪＡ等の積極的な参画を促す必要がある。

以 上